

58号「福良」、59号「波食棚」に続き、今回は、「二の浜周辺の藻場・ガラモ場」を紹介します。

1 二の浜周辺の藻場・ガラモ場

坂井市三国町崎の二の浜周辺には、県内有数規模の面積の藻場・ガラモ場が広がっています。ガラモ場は、ホンダワラ類の海藻が生育している海中の海藻林です。

冬～春にかけて、潮がよく引く天気の良い日に、二の浜周辺の海岸を歩いてみると、海面を覆いつくす海藻に圧倒されます。この海藻が、ホンダワラの仲間です。

夏には小さなホンダワラしか見られないため、うっそうとしたガラモ場の林の中に潜るためには、遅くとも4月下旬～5月のまだ冷たい海に入らなければなりません。この時期は、ツルモの林など様々な海藻で海中が彩られています。



2 二の浜周辺に生育しているホンダワラの仲間



ホンダワラは、海藻の中で最も複雑な形態(体が、仮根・茎・主枝・葉・気泡に分化)をしています。

海岸を歩いて、打ち上げられたホンダワラや海面をそっと覗いてみると、気泡や葉の形などから、ガラモ場のホンダワラは決して1種類ではなく、数種類あることに気づきます。

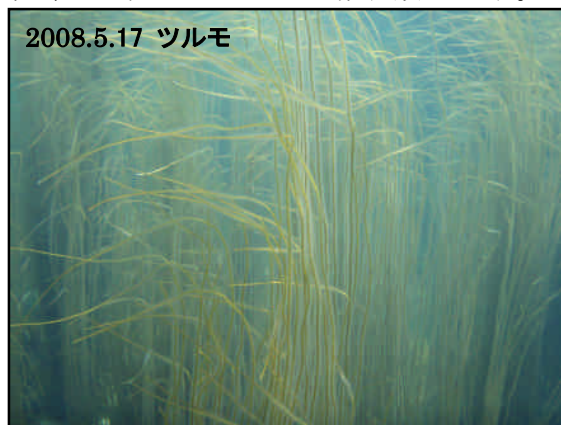
- ・ヤツマタモクは、大きな気泡が特徴、最もよく見られます。
- ・マメタワラは、まん丸い気泡が特徴。
- ・トゲモクは、茎のトゲ状の突起が特徴。
- ・イソモクは、潮間帯に生育する小型のホンダワラ。



- ・ジョロモクは、茎が平たく、細長い気泡のホンダワラ。
- ・フシスジモクは、根元付近の大きな葉が特徴。
- ・アカモクは、細長い気泡と気泡先端の葉が特徴。
- ・ナラサモは、波当たりが強い波食棚先端部の潮間帯に繁茂。茎が短く、へら状の葉の形が特徴。
- ・ウミトラノオは、波打ち際に繁茂する種類で、植物のトラノオや動物の尾を連想する形が特徴。冬の干潮時には、岩礁海岸の波打ち際を埋め尽くします。

ナラサモとウミトラノオは、潮がよく引いた時には、体全体が陸上に現れるような潮間帯上部に生育しています。

この他、二の浜周辺のガラモ場を構成するホンダワラの仲間は、いわゆるホンダワラなど数種類あります。





フシスジモク



イソモク



ナラサモ



ウミトラノオ

3 ホンダワラ類の繁殖と成長

(一部、京都府海洋センターHP から引用)

下の写真は5月に撮影したものです。この時期には、気泡の他に、細長い生殖器が見られます。

左がジョロモク、右がアカモクで、ジョロモクに比べてアカモクの大きな生殖器は、海中でよく目立ちます。

ホンダワラの仲間は、種類により、成熟に要する期間や、その後の繁殖方法に違いがあります。

例えば、ホンダワラは2年以上かけて成熟しますが、アカモクやヤツマタモクなどは、発芽から1年で生長、成熟します。アカモクは寿命が1年で、成熟が終われば枯れてしまいます。その他の多くのホンダワラ類では成熟後、上部の主枝は枯れますが仮根・付着器や茎は残り、茎から再び新しい主枝が伸びます。この様に主枝が毎年生え替わり、ノギリモク(若狭湾に多く生育)の様に5年以上の寿命を持つ種もあります。

これから春にかけて、天気の良い日に海岸に出かけてみませんか。表紙の漂着物にも出会えるかも！



ジョロモクの生殖器床



アカモクの生殖器床

※坂井市作成「みくに自然学習歩道 map」は海浜公園センターで入手可。[福井の浅海:<http://www5a.biglobe.ne.jp/~k-marine/>]でも紹介中。